



二葉幼稚園

2020年 園のたより 10月



10月の聖句

いかにたのしいことでしょう しゅにかんしゃをささげることは
詩編9 2章2節

10月のさんびか

きみがすきだって

こどもさんびか 1 3 2



楽しむ

昨年の運動会、最後の演目パラバルーンを終えた年長さん。拍手の渦中、一人ずつ名前を呼ばれ、達成感と自信に満ちてゆっくり堂々と歩く姿に例年ながら深い感動を覚えました。

年長児の姿に憧れた年中さん。その後しばらく、自発的に、並んで歩くごっこが続きました。自然と先生役も生まれ、数人で楽しむ姿に「僕も」「私も」とその列は大きくなっていきました。

「今すぐにも、年長さんになれそうだね。」先生達は目を細めて見守ったものでした。1年がたち、待ちに待ったパラバルーン。9月に入り、2回目の取り組みの日。たまたま通りかかって思わず足が止まりました。子ども達から伝わる熱気と意欲。一人一人の表情に「楽しい！」「うれしい！」気持ちが溢れています。メリーゴーランドの表現では空を見上げ、指先を高く掲げて歩きます。「やっと私の番が来た！」とばかり、喜びと自信に満ちた…ちゃん、指先までピンと伸びています。輝く姿に感動してお母さんにお伝えすると「すごく楽しいって言ってます。パラバルーン買って！って言われ、家族ですの？って。」と思わず談笑の朝となりました。

今年、年中さんは自分達で作ったポンポンを持ち、躍ります。昨年は初めての運動会、嬉しくて気持ちが弾けた子ども達もいれば、大勢の観客に圧倒され、緊張もして、いつもよりは控えめな表現だったり、唯立っているのが精一杯のように見えた子ども達もいました。

後日、心の中ではそれぞれに楽しんでいたことがわかり、改めて、目に見える姿だけでなく、個々の子ども達の心の声や思いに寄り添いたいと思ったものでした。

今、友達と顔見合わせ、笑顔で躍り合う姿に1年の成長を感じずにはおれません。難しいステップに挑戦「見て見て！」と。友達と唯一緒にいただけで嬉しいんですね。自由遊びでも自分が楽しい、面白い！と感じたことをお互いに、自然と伝え合う姿が見られ、微笑ましく、頼もしく感じます。

4月より2ヵ月あいて、6月から園生活が始まった年少さん。分散登園もあり、ゆっくりゆっくりの歩み、2学期、ようやく午後保育に慣れてきました。自分のクラス、先生達、友達がわかってきて、誰かが泣けばそばに寄り添い、背中を撫でて励ます姿、玩具の貸し借りにも葛藤する姿、言葉で会話が難しくともオーバーアクションや変顔などして笑い合って交流を深める姿、朝送って頂いたご家族に「もう、帰っていいよ」と伝える姿などから、子ども達が安心して自分の世界を創り始めているのがわかります。今年は歌詞を聞けば、3歳児そのもの、と思えるような怪獣や恐竜になりきり、表現を楽しんでいます。ガオーガオーと大興奮。わんぱくでもいい！たくましく育てほしい(むか〜しのコマースャルにあったような…？わかる方いらっしゃいます〜？)と願います。

例年とは異なる“ふたばこフェスタ”。それぞれの現在の姿をありのまま受け止めて、子ども達の伸びていこうとする力を信じ、その育ちを皆さまとご一緒に心から応援できればと願います。【園長】